

地図で見える真実 「地図が読めない」を克服
国土地理院の空撮ルポ

HKT48の負けん気
みんなの知らない出産

昭和63年6月10日第3種郵便物認可
2017年2月20日発行
毎週月曜日発行(2月13日発売)
通巻1607号

AERA

'17.2.20

No.8

定価 390円

アエラ

アイドルグループ

HKT48

【大特集】

地図で
あぶり出す未来



photo gettyimages

contents — 1

大特集

地図の力

地図であぶり出す未来

トランプ後の真実を読みとく「面積統計地図」／有史以来の地震を記録／人口の視覚化でわかった英国、米国の分断……10

「地図が読めない」を乗り越える

地図をぐるぐる回しても迷子になる私たちの克服法は……14

技術

VR時代はスマホがグイグイ動いて目的地まで……17

地政学

「地政学ブーム」と日本の立ち位置

防衛研室長が警鐘「脅威という色眼鏡は外せない」……20

街歩き

「面白い街」には遊郭がある

街歩きの極意を「下流社会」の三浦展さんと埼玉・飯能を歩いて学ぶ……22

最前線

現代の伊能忠敬を探して

国土地理院の空撮調査に同乗ルポ／ポケモンGO開発者／歪み抑えた世界地図／ゼンリン調査員／路線図アプリ……25

古地図

美しき古地図の世界

「江戸切絵図」「ジャイヨ世界図」…アプリでも楽しむ……42

出産

【集中連載】みんなの知らない出産⑤ 赤ちゃんの死

産声が聞こえない 悲しい出産……30

eyes 379 姜尚中



「迷宮の劇場国家」 世界が近づくと

ロシア出身の映画監督ヴィタリー・マンスキーの「太陽の下で真実の北朝鮮」が上映されています。マンスキー監督は、平壤に住むジンミという8歳の少女と1年間生活をともにし、その姿をカメラに収めました。撮影されたフィルムはすべて当局に検閲されます。そこでマンスキー監督は、一部隠し撮りをしたフィルムをすく

にダビングすることで検閲に引っかからないようにしました。シーンにはジンミの誕生会です。親族が集まっているのですが、隠し撮りしたフィルムに映っていたのは、振付師によって出演者すべてが演技指導されている姿でした。撮影前は、くたびれた表情ですが、ひとたびアクションの声がかかると満面の笑みに豹変するのですから、低級の笑劇を見せられている感じですが、でも演じている本人たちは真剣そのものですから、滑稽であると同時に哀れに思えてしまいます。映像で見かける北朝鮮の人々のオーバードラクションは、演技指導によってつくられていたことが映像からわかります。

マンスキー監督は、あるインタビューで「彼らは劇場の中で演技をしている。でもそれもまた劇場の中の劇場じゃないか、そんな疑いをもってしまおう」と話しています。北朝鮮では、真実と虚偽の区別すらわからなくなっているというわけです。演じている人たちの素顔はどこにあるのでしょうか。

この点で興味深いのは、「君にとって本当に好きなことは何？」と聞くと、ジンミが「わからない」と涙を流すシーンです。そこには、將軍様云々という言葉は条件反射で出てくるのに、本当の自分、そして本当に自分が好きなことがわからない、いやそうした問いそのものに懊悩する少女の姿があります。彼女の流す涙だけが、まだ少女の中に残る人間性の証明を語っているかのようです。

この映画を見て笑いのタネにするのは簡単です。でも、虚実ない交ぜになった言説が我が物顔にのし歩くようなトランプワールドを見ていると、何が真実で虚偽なのか判然としない「脱真実」(ポスト・トゥルース)の世界です。「太陽の下で」の世界に何センチかでも近づきつつあるのではないかと。何とも複雑な気持ちにさせられました。

この欄は内田樹さんと交互に執筆します。



contents — 2

好評連載

- 5 eyes 姜 尚中
- 7 東 浩紀
- 54 佐藤優の実践ニュース塾
- 55 ぐっちゃんさんの
ここだけの話
小島慶子の
幸復のススメ!
- 65 オチビサン 安野百葉子
- 71 星野源
音楽の話をしよう
- 72 武藤嘉紀
職業、ブンデスリーガー
- 74 はたらく夫婦カンケイ
ニッポンの課長
- 76 チロルチョコ
- 78 伊藤まさこの
おいしい時間をあの人へ

AERIAL

- 66 アエラ 近藤康太郎 評
読書部 「評伝デヴィッド・ボウイ
日本に降り立った異星人」
この人のこの本
宮台真司
乙武洋匡の
読書days
- 68 玉塚元一の
キャプテンのテイクノート
福岡伸一の
生命探検
稲垣えみ子の
アフロ画報
- 70 ジェーン・スーの
先日、お目に掛かりまして
厚切りジェイソンの
厚切りビジネス英語

フォトグラファー(表紙) 蛭川実花
アートディレクター 福島源之助
デザイナー 原 雄一/羽多野一造/内藤真理/
根本勝子/高 理子/森田 直/
水月健太郎
チャートデザイナー 枝常暢子 岡山憲夫

HKT48は「福岡拠点」だから全国区に

負けん気の強い九州女子たちのモチベーション

宮脇咲良 松岡はな 兒玉遥 指原莉乃

「目標を持つと、そこで成長が止まる。何も考えず、与えられる場で頑張る」(指原)34

アイドル

映画 「海は燃えている」巨匠ジャンフランコ・ロージ監督に島村菜津が聞く38

音楽 「消滅」音楽はキューバに残る46

文学 「中国の村上春樹」は人民の黒い欲望を描く56

小池都知事の“懐刀”

野田数特別秘書に独占インタビュー

「小池新党で都議選は過半数取る」「都議会自民党は村社会」58

都政

反トランプ運動の「落とし穴」

米主要メディアが報じない「暗殺メール1万2千件超」と「反トランプ離れ」60

米国

トランプを批判できない日本の入管の対応

「新フンボルト」(お茶大)に「パスカル」(創価大) 変わるAO入試63

社会

大学

表紙の人 HKT48・アイドルグループ9

現代の肖像 別所哲也・俳優/西所正道48

AERA-note 編集長敬白64

eyes 380 東 浩紀



相対主義の時代に もう一度普遍主義の価値を

マーティン・スコセッシ監督の映画「沈黙——サイレンス——」を観た。キリシタン弾圧の嵐が吹き荒れる17世紀の長崎を舞台に、来日したポルトガル人司祭が棄教にいたるまでを描いた話題作である。

原作は遠藤周作の小説で、発表時には宗教界から強い反発があったという。映画はどう受け止められているのだろうか。キリスト教徒ではないほくにはわからない。しかし本作は宗教を離れても理解できる問題を扱っている。それは普遍主義の問題である。

映画では日本人奉行が司祭に棄教を迫る。そこで軸になるのが、キリスト教の普遍性を訴える司祭と、そんな普遍性などないのだと説く日本人の論争である。日本人は宗教を統治の道具としか捉えない。だから国が変われば神も変わると考える。司祭にはまさにそれが受け入れられない。普遍でなければ神ではないからだ。

物語の舞台は400年前だがこの問題はまったく古びていない。普遍主義対相対主義の対立は、21世紀のいまも変わらず存在し続けている。イスラム過激

主義の問題がそれである。文化相対主義はイスラムとの共存を説く。過激主義者はまさにその共存が許容できない。

ほくたちはいま相対主義の時代に生きている。だから(とくに日本では)多くの観客は、司祭ではなく奉行に親近感を抱くかもしれない。イッセー尾形と浅野忠信が演じる権力者は、じつに合理的に世俗的価値観との妥協の必要性を説いている。

けれども、ほくが感銘を受けたのは、この映画がむしろ反時代的に普遍主義の強さと尊さを描いているように思われたからである。遠藤の原作は弱さの小説だったが、これはむしろ強さの映画なのではないか。ポルトガル人司祭は遠く日本まで、命の危険を冒してやってくる。そして言葉の通じない村人と心を交わす。普遍主義者はたしかに迷惑な存在だが、世界の裏側の貧者にまで手をさしのべる強さももっている。それは非合理だが、それゆえに尊い。

「自国第一」が世界中に広がっているいま、ほくたちはもういちど普遍主義の価値を問い直すべきではないか。そんなことを考えながら映画を観た。

この欄は浜野子さんと交互に執筆します。